

令和7年度第4回昭島市総合戦略推進委員会

議事要旨

日時：令和8年1月21日（水）
午後6時00分～7時30分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
昭島市総合戦略の見直しについて
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

- 資料1 令和7年度第3回昭島市総合戦略推進委員会議事要旨（案）
資料2 昭島市次期総合戦略（骨子案）
（参考）現行総合基本計画（P81-89）
資料3 政策指標の進捗状況

出席者

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）
副委員長・・・松崎順（立川公共職業安定所）
委員・・・内保顕（栗田工業株式会社）、桑原圭子（ジェイコム東京多摩局）、久保充司（公募市民）、幸田義康（公募市民）
欠席（竹内克雅（西武信用金庫）、武藤茂（昭島市商工会））
事務局・・・池谷企画部長、小林デジタル化担当部長、村山企画政策課長、藤岡企画調整担当係長、板谷主任

1. 開会

○令和7年度第3回昭島市総合戦略推進委員会議事要旨（案）につき、全会一致で承認を得た。

2. 議題

議題 昭島市総合戦略の見直しについて

事務局より、事前送付の資料2と資料3に基づき、昭島市総合戦略基本目標1及び2につき、庁内推進委員会の意見を踏まえた改定案について説明。

○基本目標1

【久保委員】

現状⑦等の部分についてだが、他の項目と比較すると粒度が粗いように思う。絞りすぎるのもよくないが、もう少し具体的に現状を記し、課題、方向性につなげていくのはどうか。

【事務局】

担当課に状況を確認し、書きぶりを工夫したい。

【松本委員長】

前回小林部長から説明があったが、誰一人取り残さないということを昭島市におけるDX推進のポイントとしている。今の書き方では単純に「中小企業を中心に」と書いてあるが、中小企業だけが悪いようにも読めるので「誰一人取り残さない」の部分を反映させた書きぶりにしていくことが昭島らしさにつながるように思う。

【久保委員】

デジタル化は幅広い内容だと思うので、中小企業のデジタル化により、市民生活に影響があるところをフックにするのもよいのでは。例えば、競争力や、マーケティング力が上がることによる市民への還元がある等。

【松崎副委員長】

立川ハローワーク管轄地域における求職者の特徴としては、地元で働く志向が高い。政策指標の中に、地元昭島市で就職したい方の支援とある。市内事業所数の維持が難しい実態もあるが、地元就職を希望する市民の支援というような内容があってもよいと感じる。

【内保委員】

市内の企業が市の施策等を色々な発信の仕方で協力できる体制があるように思っている。

基本方針1と4のどちらに入れるべきかわからないが、働くもしくは住むという視点として、安全・快適に使える道路などのインフラは求められるので、記載があってもいいのではないか。また異常気象や温暖化が世の中で問題になっている中で、どこの目標に入れるべきかわからないが、切り口として取り上げるべきではないか。

【松本委員長】

安心・安全の内容は基本目標4に入れていたが、今回の案からは抜け落ちているように見える。基本目標4に先ほど挙げた自然環境・自然災害、感染症のよ

うな部分が書かれてはいるが、状況が変わってきている部分を意識した方がいかかもしれない。

【内保委員】

市内事業所数を維持という政策指標が掲げられている。昭島市は活気のある市だという印象があったが実態としてはどのような状況なのか。また、維持を目指すということが妥当なのか教えてほしい。

【松本委員長】

細かい数字は後ほど確認した方がいいと思うが、基本的にはどこの自治体も減少傾向にある。

【事務局】

全体の傾向としては、大型店舗等の利便性の良い施設の影響で、おのずと小規模店舗は少なくなっている。特徴的な商品等を持っていなければ生き残っていけない。ただそうした中で、いわゆる中小零細企業の力を、市は大切にしていかななくてはならない。

【久保委員】

他の項目では「目指します」としているがこの目標だけ「維持します」としているのが目立つ。おそらく人口と一緒に、増やすということは難しいのが実態。維持することも至難の技だという中でデジタル化が進んでいるのだろう。

【松本委員長】

現状の⑤に記載のある「創業、副業、フリーランスなどの働き方の価値観が多様化」の意味は、単純に事業所が増えるだけではなく、働き方の多様化で働く場や機会を増やしていけるということ。事業所が増えるイコール雇用が増えるということではなく、事業所に勤めなくても働ける現状もある。

全体の流れの話になるが、現状と課題が分かれているのがわかりづらい。現状・課題・基本的方向性は全部つながっていて、いくつかの施策に集約されていくのだと思うが、対応関係のチェックは必要。

【事務局】

最近発表された国の計画では、目標から施策につながるまでの因果関係を検証するように指示があるので、研究し、わかりやすい表現を試みる。K P Iを設定しないといけないので苦しんで設定している部分もあるが、整合性を持たせられるようにしていく。

【桑原委員】

M字曲線について記載があるが、解消できるものなのか。国から解消していくようにと指示がでてきているのか。女性が妊娠・出産を行うにあたってはどうしてもM字にはなってしまう。

【事務局】

多様な働き方の導入、支援によってM字のカーブを少しでも浅くしていくということではあるが、確かに完全な解消にはならない。

【久保委員】

いわゆる男性の育休取得を市が支援していくなど、企業に働きかけていくということか。基本目標1にM字曲線をなだらかにしていくと書くのであれば、何か具体的な内容を入れなければ絵にかいた餅とならないか。

【事務局】

待機児童の解消、働きやすい環境の整備となると基本目標3になる。切り分けは難しいが、昭島市で働きたいと思ってもらえるような環境を整えるという意味で基本目標1に入れている。また、国や東京都が行う支援を市民へ伝えていくということも支援策に含まれると考えている。

【松本委員長】

M字曲線の解消という指標が合っているかどうかという問題はある。単純に女性の就労率が上がるという意味の曲線なので、子育てとは関係なく働かないと暮らしていけない要素も入ってくる。M字曲線が解消されるイコール子育てしやすく安心して働けるとは限らない。相関関係があるとは言えない時代となった。

これからの時代は、男性の育児休業取得率等が子育てしながら働くことができるという指標になるかもしれない。これは次の総合戦略の指標なので、時代を先取りしたような指標を組み立てておいた方がよい。

【幸田委員】

ちょうど今、私の会社でパパ育休関連の厚生労働省所管の助成金を申請しようとしている。そういう制度があることをどんどん広報し、また「くるみんマーク」といった認証取得率をあげていく等できるのではないか。

【松本委員長】

民間企業がこういうものに申請するのが苦手・わからない部分をきちんとサポートすることは、自治体としてできることなのではないか。

【内保委員】

育休の制度を整備している会社は増えている。共働きが当たり前の世の中で、若い層の男性育休取得率は、取得期間は様々だがほぼ100%だと感じる。それに対して、企業が対応できるように後押しすることは市の政策としては非常に意味がある。

【松本委員長】

働く環境を整備しようとする企業を応援する要素を入れることが必要だと思う。

【桑原委員】

ワークライフバランス認定事業所等が多い市や地域に目を付ける就活中の学生もいるので、何かそういう部分を表に出した方が、行政としては良い形で目立つ。

【松本委員長】

指標も含めて検討してほしい。事業ごとのK P Iではなく大きなK P Iになるので、慎重に決めたいと思っている。もう1回委員会があると思うので、そこに向かって検討いただきたい。

○基本目標2

【久保委員】

文化財のデジタル保存とあるが、どの課題や現状に関連しているのか。

【事務局】

前段部分の書き込みがなされていないかもしれない。因果関係がわかるように記載していく。

【小林デジタル化担当部長】

生涯学習部で文化財のデジタルアーカイブ化を進めている。ものとして文化財を残しておくことは当然だが、映像化等によるデジタル化を行うことによって、永久的に保存することができる。合わせて、デジタル化することによって発信力が高まり、全国・世界中の方に見てもらえるようになる。現状と課題の部分に記載していくようだと思う。

【松本委員長】

民間の研究所で見たが、文化財を3Dのような形にし、普段見ることができない視点から見る・バーチャルで触れる等の技術はたくさんあり、これにより文化財が少し身近なものになったりする。現物は、どんどん劣化していくので、本物は大切に保存してデジタルで体験ができたりする。

【小林デジタル化担当部長】

デジタルアーカイブすることによって学校教材等でも使えるようになる。デジタルアーカイブ化は今やらないと失われていくようなものに対して、積極的に進めていきたい。

【幸田委員】

昭島の湧水が出なくなっているのは人口が増えたからという地域からの声をきくが、因果関係はどうなのか。名水百選に選ばれた諏訪神社の湧水も完全に枯れている実態がある。

【事務局】

飲料水の点から言えば、昭島市の水道水は深層地下水であり、これが減っている事実はない。またこれから昭島市の北側の開発が進み、そこに対して新たに水

を供給することになるが、対応ができる。ご指摘の湧水は浅層の地下水の話であり、気候変動や土地形状の変化に影響を多く受ける傾向にある。

【松本委員長】

あきしまの水のことは、知ってもらう・活用するというようなPRを行っており、一つの大きな売りになっているが、ある意味同じ方向でずっと活動してきている。そろそろ次の段階を考えた方がいいのではないか。

例えば、深層地下水の水量はまだ尽きないという話だったが、湧水が出なくなっている等の環境の変化の中で、あきしまの水を守ろうという視点が入ってもいいように思う。そこから環境教育や市民が水を守らなくてはという意識につなげていく。

【久保委員】

あきしまの水に何か問題があるということを現状・課題の部分で述べなければ、守るということに関しても言及しづらいと思う。昭島市は水が売りで魅力だと思うが、基本目標2において、途中で水の話がなくなってしまう。あきしまの水を取り巻く環境認識を正しく、客観的に分析した上で、次のステップ、アクションにつながるのではないか。

【事務局】

市職員は、あきしまの水は市の魅力であり守っていくべきものという意識が強い。次の段階として、例えば守っていくとしたときに対外的な広報手段としてデジタル技術を活用することもありえる。

【小林デジタル化担当部長】

あきしまの水は市民の財産であって、これが失われることによって、市民の不動産・住んでいることの価値も下がってしまうということは、確実にある。水という財産を一緒に守っていこうという意識を市民全体でもっと高めていくべき。

【松本委員長】

あきしまの水は、ここまでシティプロモーションの文脈でしか使ってこなかった印象。環境の大きな変化の中で、水がこのまちの生命線になってる意味はとても大きい。教育等にもつながっていくことであるし、自分の家の水道から出てくる水の存在をどのように捉えていくかは非常に大事だと思う。

総合戦略は人口減少をどうにかしなくてはというところからスタートした計画なので、どうしても人を呼び寄せるような視点が強い。しかし、今更お互いに人口を奪い合っても仕方がないという考え方が世の中において主流になってきているので、国も総合戦略の方向性を考え直さなくてはいけないのだと思う。どの町もこの総合戦略の位置付けを悩んでいるようだ。その中で、昭島はかなり丁寧にこの計画を扱っていると思う。ここまできちんと委員会を作って運営しているところは少なくなっている。

【久保委員】

やはり、昭島は水という大きな武器がある中で、しっかり活用していかないのは勿体ないという気がしている。もっともっと発信していけるのではないかな。

○基本目標4

【久保委員】

地域コミュニティの推進を図るといというのは、具体的にどのようなイメージなのか。

【事務局】

自治会加入率は今 30%を切っている状況。今後自治会の加入率が上がっていく時代ではないという中で、防災の視点を旗印とした計画となっている。自主防災組織といった地域での共助・助け合いの関係の視点で地域コミュニティを活性化していく。

【久保委員】

自治会の加入率を増やしていくのにこだわっても現実的ではない中、別の手段やアプローチを行っていくということか。

【事務局】

自助・共助・公助の関係は大切だが、一朝一夕にいくものではない。また、昔からの積み重ねもある。あらゆる年代に共通して自分事にもなるつながりやすいテーマが防災。また、デジタルによりつながりやすくできる部分はぜひ、後押ししていきたい。

【内保委員】

デジタルを使って誰一人取り残さないという方針は非常にいいと思う。具体的な策を教えてほしい。

【小林デジタル担当部長】

例えば、高齢者のスマートフォン保有率は2、3年前に調査した時でも70代ぐらいまでは7割程度となっている。一方で、80・90代の方が新たにスマートフォンを使い始めることはほとんどないのが実態であるが、そういう方々にも当然デジタルの恩恵を受けてもらいたい。

スマートフォンを使わない人たちに対して直接スマートフォンを使った講習等を行うということではない。例えば、必要なサービスを受ける際に、介護者や親族が、わざわざ市役所に来なくても本人に関する手続きができるということも、一つのデジタルの恩恵と言える。

また、若い世代の方たちがデジタル申請等の手続きを行うことで、窓口対応時間が圧縮されたり、入力されたものに関して論理的にチェックをかけ、エラーのないデータとして送られてきたりするようになる。RPA等を使えば、何時間も

費やして行っていた入力作業が省力化され、そこから生まれた時間を、デジタルから離れている方たちに対して、フェイストゥフェイスのサービスを行うことができる。

3. その他

【事務局】

- ・次回会議は3月もしくは4月頃の開催を予定。
- ・「令和7年度（令和6年度事業）評価報告書（案）」については、近日中に送付し、内容の確認を頂きたい。
- ・今回の議事要旨は次回委員会開催前に送付し、確認・承認をいただき、公開としたい。